

研究・調査報告書

報告書番号	担当
9 5	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Increased stroke risk is related to a binge-drinking habit. 一回大量飲酒は脳卒中リスク増加と関連	
執筆者	
Sundell L, Salomaa V, Vartiainen E, Poikolainen K, Laatikainen T.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Stroke. 2008 Dec;39(12):3179-84.	
キーワード	
一回大量飲酒、飲酒様式、脳卒中	
要 旨	
<p>目的： 一回大量飲酒は脳卒中全てのリスクを増加させるが、適量かつ規則的飲酒は虚血性脳卒中のリスクを低下させる。本研究の目的は飲酒様式の違いと脳卒中リスクの関連を平均飲酒量とは独立して検討することにある。</p> <p>方法： 国家リスクファクター調査に参加し、追跡開始時に脳卒中の既往のない25～64歳のフィンランド人15,965人の男女を前向きコホート研究にて10年間追跡した。追跡期間中の初回脳卒中発作を評価目標とした(249の脳卒中発作)。一回大量飲酒とは男性では6飲酒単位以上(1飲酒単位は約11gのエタノール量)、女性では4飲酒単位以上を1機会に飲むことと定義した。平均飲酒量、年齢、性、高血圧、喫煙、糖尿病、BMI、教育歴、調査地域、調査年、および心筋梗塞既往を調整因子としてCox解析を行った。</p> <p>結果： 一回大量飲酒は脳卒中全体および虚血性脳卒中の独立したリスクとなった。平均飲酒量、年齢、性で調整したとき非大量飲酒者に比べて大量飲酒者の脳卒中全体のハザード比は1.85(95%信頼区間=1.35～2.54)であったが、さらに他の因子を加えて解析すると影響は弱くなった。同様に非大量飲酒者に比べて一回大量飲酒者の虚血性脳卒中のハザード比は1.99(95%信頼区間=1.39～2.87)であったが、さらに他の因子を加えて解析しても結果は不変であった。</p> <p>結論： 一回大量飲酒様式は脳卒中全体および虚血性脳卒中の独立したリスクであることが判明した。</p>	